

【研究活動報告レポート】

八洲学園大学「リカレント研究員」制度の開始について

山鹿 貴史

八洲学園大学 生涯学習学部 准教授

1. 本稿の目的

2020 年度から八洲学園大学（以下、本学）「リカレント研究員」制度（以下、本制度）が開始する運びとなった。本制度においては現時点（2021 年 3 月 10 日現在）で既に 2 名の研究員が研究活動を行っているほか、翌年度からは新たに 1 名が加わる予定であり、今後のさらなる広がりが期待されている。

本稿ではこの制度の概要を紹介し、また併せて制度開始に至るまでの背景と動態を振り返り、今後の本制度に期待される役割についての考察を行いたい。

2. 「市民フェロー研究員」制度の功績と課題

本学では 2012 年度から 2015 年度末までの間「市民フェロー研究員」制度が存在していた。当該制度に関する記録は山鹿（2016、2017）に詳しいが、定例研究会では多様な人材が集い毎回闊達な議論が行われ、また研究員による公開講座の開講や、後には本制度をきっかけに本学にて教鞭を執ることとなる人材を輩出した。

他方で、各研究員の研究テーマが散逸していたこと、「e ラーニング大学」を謳いながらもオンラインでの研究会開催や参加などができなかったことなど、いくつかの課題も残しつつ諸般の事情により 2016 年 3 月末をもって当該制度は終了する運びとなった。

3. 「リカレント研究員」制度の始動

それから暫くして、本学においてもその内外で様々な動きがあった中で、本制度の創設に向けて水面下で作業が進められることとなった。本制度と前述の「市民フェロー研究員」制度との大きな違いは、①研究員選抜・研究アドバイス体制を厳格化したこと、②研究員登録に際して登録料を要するようになったこと、③オンラインでの活動を中心とするようになったこと、などが挙げられる。これらの点は「市民フェロー研究員」制度における課題の反省を活かしつつ、通信制大学であり開学以来「e ラーニング大学」、「インターネット大学」を称する本学の強みを活かせるように改善した点といえる。また図らずも、2020 年初旬から世界で猛威を振るっている新型コロナウイルス(COVID-19)への感染対策という点でも、適した形での制度開始という運びとなった。

4. 名称について

本学には元々「リカレント編入学」という入学形態が存在している。「リカレント」とは「循環」を意味する語であり、また「リカレント教育」とはスウェーデンの経済学者ゴスタ・レーンにより提唱された生涯学習の在り方に関する概念であるとされている。しかし大学とは教育機関であるのと同時に研究機関でもあり、学修活動のみならず研究活動に関する社会的要請に応えるという意味では、全国の大学で唯一¹の「生涯学習学部」を擁する本学にとって相応しい制度名称といえる。

5. 今後の展開について

前述のとおり 2020 年度中に 2 名が登録され、2021 年度からはさらに 1 名が加わり、研究員 3 名が本制度下で研究活動を推進してゆく運びとなっている。また現時点において研究アドバイス等を行う担当教員は 2 名体制だが、今後の展開次第ではさらに増員してゆくことも考えられる。

活動としてはオンラインでの定例研究会、研究アドバイスなどが既に実施されており、2020 年度中には『リカレント研究論集』創刊号の発刊も予定されている。また各研究員においては本学のみならず、研究活動のフィールドを徐々に学外に広げてゆくということも期待される。

21 世紀の生涯学習社会、またコロナ禍の社会における様々な要請を汲み取りつつ、研究活動を行う人材の輪を少しでも広げてゆくということが、本制度に期待されている役割の一つといえるのではないだろうか。筆者も担当者の一人として、そうした役割に寄与できるよう本制度の継続・発展に尽力したいと思う次第である。

【引用・参考文献等】

- ・山鹿貴史「八洲学園大学 市民フェロー研究会の軌跡」
『八洲学園大学 市民フェロー研究会 研究報告集』、
八洲学園大学 市民フェロー研究会、2016 年 3 月、pp.97-102
- ・山鹿貴史「大学市民研究員制度に関する一考察」『小田原短期大学研究紀要 第 47 号』、
小田原短期大学、2017 年 3 月、pp.290-294

¹ 「生涯学習学科」では常葉大学、「生涯学習学研究科」では北翔大学などが存在している。